

令和6年度 長期経営計画

学校法人 大阪成蹊学園

I. 長期経営計画

大阪成蹊学園では、令和5（2023）年度の実績を踏まえ、令和6（2024）年度以降の10年間における計画として「大阪成蹊学園 長期経営計画」を策定します。10のアクションプランを柱として、建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材の育成を目的とする全学的な教育改革と、安定的な法人・学校運営を可能にする経営基盤・ガバナンスの改革に取り組み、教育研究活動と法人経営の両面で多くのステークホルダーから信頼され、選ばれる学園をめざします。法人及び学園各校、各部門における各年度の事業計画の策定、日常の業務遂行におけるエビデンスベースのPDCAサイクルの徹底、自己点検・評価活動等を通じて、本長期経営計画の実現を図ります。

○ 学校法人大阪成蹊学園 長期経営計画における10のアクションプラン

1. 大阪成蹊学園の教育目標の達成 「人間力」教育の確立

- （1）建学の精神「桃李不言下自成蹊」及び行動指針「忠恕」を体現する「人間力」のある人材を育成するための全学的な教学ガバナンスの強化
- （2）学園各校及び各学部等のディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成する教育体系の充実

2. 明るく、品格があり、活力のある学園風土の醸成

- （1）学生一人ひとりの品格を磨く「PBM（Personal Brand Management）プロジェクト」の展開
- （2）教職員一人ひとりが「高い志」と「使命感」を持ち、教育研究活動・学園運営に参画する組織文化の形成（FD・SD）

3. 選ばれる学校であり続けるための成長戦略・将来構想の実現

- （1）大学、短期大学、高等学校の多様な学生・生徒が学び合うキャンパスへの再編
- （2）新学部・学科等の開設、既設学部・学科等の発展的改組による学びの充実

4. 少子化・進学トレンドに対応した戦略的學生募集・入試制度の改革

- （1）志願者数を増やし、入学者を安定的に確保する募集広報活動の展開
- （2）高校生の学習ニーズに応える多様な高大連携事業の展開
- （3）多面的・総合的評価を実現する入試方法の改革
- （4）学園及び学園各校のブランド力を高める戦略的広報の展開

5. 持続的発展を続けるための経営力の強化・財務基盤の整備

- （1）学園各校の持続的発展を支える安定的な財務基盤の確立
- （2）財政力と成長力のバランスある発展
- （3）ガバナンス・コードに基づいた適正な学園運営
- （4）理事会、評議員会等の適正な運営による経営機能の強化
- （5）各ステークホルダーに対する経営・教学情報の適切な公開

6. 教育の質を保証し、特色ある教育を展開する全学的な教学改革の推進

- (1) 大阪成蹊学園教学改革 FSD 会議及び各プロジェクトを中心とした全学的な教学マネジメント体制の確立
- (2) 「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」を核とする全学的な「人間力」教育の展開
 - * 「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」: Literacy (知識を活用して課題を解決する力)、Competency (自分を取り巻く環境に実践的に対処する力)、Dignity (徳、品格、品性) の3つの力を養う本学独自の教育プログラム
- (3) エビデンス・教学 IR 情報に基づく検証、可視化、PDCA サイクルの徹底
- (4) 総長、学長のリーダーシップ及び、副学長・学部長、本部長・部長等の中間職による組織運営の強化
- (5) 定期的な自己点検・評価活動の実施
- (6) 運営諮問会議や学生評価委員等による多角的な点検・評価活動の充実

7. 学生・生徒一人ひとりの成長を後押しする教職協働型の学修支援・学生支援体制の構築

- (1) 個々の学修状況や学生生活状況等のきめ細かな把握と、教職協働による指導・支援の充実
- (2) 免許・資格取得等に向けたサポート体制の充実
- (3) 教員・保育士等採用試験合格に向けたサポート体制の充実

8. 学生一人ひとりのめざすキャリアを実現する教職協働型の就職支援体制の構築

- (1) 就職率、就職希望率を更に高める包括的な就活サポートプログラムの確立
- (2) 個々の就職活動状況のきめ細かな把握と、教職協働による指導・支援の充実
- (3) 学びの専門性を活かした業種・業態への就職の強化
- (4) 学びとキャリアを接続し、成長・変化が見える化するインターンシップ制度の確立

9. 世界の多様な人々との関わりのなかでグローバル・マインドを育む国際交流プログラムの充実

- (1) 正課内外の学修が連関する語学・グローバル教育プログラムの確立
- (2) 留学制度の更なる充実と留学者の派遣・受入の強化
- (3) グローバル・アクティブラーニングプログラムの充実
- (4) 協定校の拡大と国際交流プログラムの充実

10. 地域における「知」と「人」の拠点を形成する産官学連携・研究活動・地域貢献活動の活性化

- (1) 企業や自治体等との連携による課題解決型の教育プログラムの充実
- (2) 各教員、教育研究組織等における研究活動の活性化
- (3) 公開講座の開講等による地域及び社会貢献事業の活性化

II. 将来構想

大阪成蹊学園は、地域社会、教育機関、卒業生の方々など全てのステークホルダーの皆様の多大なるご支援のもと、令和5（2023）年度に創立90周年を迎えました。少子高齢化の進行、Society5.0等の大きな社会変化の到来とともに、学校教育の在り方も大きく変化しなくてはならない時期が到来しています。大阪成蹊学園の教職員一同は、未来を担う人材の養成・輩出に向け、様々な改革に挑戦できることに大きなやりがいを感じ、学生・生徒が成長していくことを楽しみにしています。令和5（2023）年度の実績を踏まえ、令和6（2024）年度以降の10年間の将来構想を以下のとおり示します。

1. 阪急電鉄京都線「相川駅」前に新キャンパスとして、令和5（2023）年度に8階建ての新校舎（総床面積約9,500㎡）を建設。今後、駅前新キャンパスのさらなる整備・拡充を検討。
2. 長年にわたり地域社会から要望のあった「看護学部」、並びに人材ニーズが高まっている最先端分野の「データサイエンス学部」を令和5（2023）年度に同時開設。今後当該2学部における教育・研究をさらに充実・発展。
3. 今後予測される少子化等の社会的な影響を見据え、社会からの要請が強い分野に関する「新学部」の開設を検討。
4. 教育の質を保証する教学改革の一層の進展および改革の成果となる学生の成長の可視化をより一層強化。
5. 未来の教育機関の在り方を見据え、教育研究活動・業務を高度化・効率化するDX推進体制を整備。
6. 今後急激に進行する少子化に対応した財務基盤を確立。令和5（2023）年度開設2学部の先行投資、並びに短期大学志願者数の減少による収益影響を今後2年間で解消。

【長期経営計画】

事業活動収支計算書

(単位：百万円)

費目/年度	2023(R5)年度		2024(R6)年度		2025(R7)年度		2026(R8)年度		2027(R9)年度		2028(R10)年度		2029(R11)年度		2030(R12)年度		2031(R13)年度		2032(R14)年度		2033(R15)年度	
	補正予算	前年比	当初予算	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
教育活動収入	10,839	▲484	10,581	▲258	10,750	169	11,129	379	11,121	▲8	11,348	227	11,441	93	11,500	59	11,502	2	11,497	▲5	11,556	59
教育活動支出	10,787	757	10,931	144	11,067	136	11,099	32	11,059	▲40	11,054	▲5	11,020	▲34	11,061	41	11,036	▲25	11,034	▲2	10,894	▲140
教育活動収支差額	52	▲273	▲350	▲402	▲317	33	29	346	62	33	293	231	421	128	438	17	465	27	462	▲3	661	199
経常収支差額	22	▲269	▲380	▲402	▲346	34	0	346	36	36	269	233	400	131	420	20	450	30	450	0	650	200